

先週の礼拝メッセージ(2021年8月8日) ベン牧師

「神の作品」 エフェソの信徒への手紙 2:10

今日の箇所では、先週の「救われたのはただ恵みによる」という言葉を受けて、神様は救われた私たちに、良い行いをも用意してくださっていると語られています。恵みによって救われた私たちが、それで満足して、神に従うことや、神に喜ばれることをしないとしたら、それは健全な信仰ではないでしょう。私たちは恵みにより、信仰によって救われたからこそ、良い行ないという光を放つ世の光となるのです。そして、その行ないをも神様は私たちのために用意してくださるのです。

なぜ、私たちは善い行いをしていくべきなのか、それを示す言葉が日本語にはあります。それは「恩」という言葉です。私たちはクリスチャンとして、恩知らずのクリスチャンにはなりたくありません。神様から、救いも含めて、たくさんの恵み(恩)をいただいているのに、それを無視し、恩に報いようとしないというのは、なんとも失礼な話です。

パウロはこう言っています。

「神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなの

です。」(I コリント 15:10)

「神からいただいた恵みは無駄にしてはいけません。」(II コリント 6:1)

私たちは神によって造られました。造られたという言葉は、直訳すると、私たちは神の作品ということです。「作品」は、英語の

聖書では、“Master piece”と記しています。それは、たとえば、芸術家が作成した作品の、コピーではなく、オリジナルのものを指すときに使います。作者にとって、Master piece は世界で唯一の大切なものです。「私たちは神の作品」(Master piece)という時、私たちは神にとってかけがえのない大切な存在ということなのです。

この世の中は、能力や学歴、肩書きや財産などで、その人を判断します。しかし神様は、ご自分の作品である私たちの存在そのものを、大切と見てくださって、さらに、私にしかできない善い行いを用意してくださっているのです。みなさんも、年齢や性別、性格や環境も、それぞれに違うでしょう。しかし、一人一人が神様の Master piece なのです。何もできないという人は1人もいません。祈ること、愛の言葉をかけること、それらも神が用意された善い行いなのです。決して教会の奉仕だけのことを言っているではありません。あなたの職場が、学校が、家庭が、神様があなたを遣わされた宣教の場であり、そこでの働きはまさに、神に仕えることとなるのです。

ですから、仕事も勉強も、家事も、喜びと感謝と愛をもってやり遂げようではありませんか。

私たちの属する教団は、ウエスレアンホーリネス教団です。ホーリネスとは聖いということです。いくら善い行い、神の作品と言っても、私たちが自我を先に立たせるなら、聖くなどなり得ません。聖霊によって内側を変えていただきましょう。すでに、私たちのために十字架にかけられ、恵みによる救いを成し遂げ、私たちを神の作品としてくださったイエス様に信頼して、遣わされた場で光を放つクリスチャン、また教会とさせていただきます。

